

「告白の続き」

— 2 稿 —

2025/8/22

山極 瞭一朗

〈人物表〉

和久井 茉凜 わく い まりん

(17)
高校生

井桁 敦也 いげた あつや

(25)
教師

栗原 一心 くりはら いっしん

(17)
茉凜の同級生

大迫 美衣 おおさこ みえ

(27)
井桁の恋人・教師

1.

高校・教室（夕）

開放された窓から風が吹き込む。

ひらひらと舞うカーテン。

井桁敦也（25）、黒板を消している。

和久井茉凜（17）、窓際列最後尾の席で、問題を解いている。

井桁、黒板消しをクリーナーに当てる。

茉凜、徐にペンを置く。

ゴーッと響くクリーナーの音。

茉凜、ちらつと井桁を盗み見る。

井桁、クリーナーを止める。振り向く。

茉凜、さっと視線を逸らす。ペンを持つ。解くふり。

井桁 「和久井さん」

茉凜、ビクツとして動きを止める。

井桁 「この前のこと……」

茉凜 「あ、ごめんなさい」

井桁 「？」

茉凜、慌てて荷物を鞆にしまって、

茉凜 「バイト」

井桁 「え？」

茉凜 「すいません」

と、そそくさと立ち去る。

その拍子に、鞆から封筒が落ちる。

井桁 「和久井さん」

井桁、封筒を拾う。

無記名。

風が吹き、カーテンが揺らめく。

井桁、茉凜が出ていった先を見つめる。

2.

和久井家・茉凜の部屋（夜）

こぢんまりとした室内。

暗がりの中、茉凜、必死に鞆の中を漁っている。鞆

をひっくり返して床に中身を出す。

床に散らばる参考書や筆記用具たち。

茉凜、呆然として見つめる。

3. 高校・外観（朝）

どんよりとした雲が空を覆う。

4. 同・教室（朝）

茉凜、机の引き出しの中を漁っている。

周囲には誰もいない。

茉凜、思いついたようにゴミ箱を覗く。

空っぽ。

茉凜、ため息をつく。

栗原一心（17）、入る。手にはノート。

一心 「おはよ」

茉凜、一心を一瞥して、席に戻る。

一心 「無視かよ」

と、茉凜の席に行き、

一心 「これ、助かった」

と、ノートを渡す。

茉凜 「あ、うん」

茉凜、鞆にしまおうとするが、一心はノートを掴んだまま。

茉凜 「ん？」

一心 「俺にしとけよ」

茉凜 「え？」

一心 「気付かないと思ってる？」

茉凜 「何が？」

一心 「ずっと変じゃん、先生に」

茉凜、一心をぐっと睨む。

一心、パツと手を離す。

茉凜、ノートをしまう。

一心 「言ったのか、好きって」

茉凜 「教師と生徒だよ。それに……」

一心 「叶わないってわかってた」

茉凜、冷たい視線を一心に向ける。

一心 「何？」
茉凜 「どうして言うの？」
一心 「え？」
茉凜 「叶わないってわかってるでしょ、栗原だって」
一心 「刺すね……」
茉凜 「先に刺したのはそっち」

茉凜、参考書と筆記用具を机に出す。
一心、茉凜の背を見つめる。苦笑する。

5. 同・職員室（朝）

井桁、デスクでPC作業をしている。
傍にはクラス写真。隅に茉凜。

井桁、写真を見る。

大迫美衣（27）、来る。

美衣 「おはよ」

と、井桁の背面の席に着く。

井桁 「おはよう」

美衣、椅子をスライドさせて、井桁の隣に来る。

美衣 「聞いたよ」

井桁 「ん？」

美衣 「仲良いらしいじゃん」

井桁 「誰と？」

美衣 「茉凜さん」

井桁 「ああ……」

美衣 「ああ、って、何もないよね？」

井桁 「あるわけ」

美衣、にこっと笑う。自席に戻ろうとしてストップ。

美衣 「あ、夜大丈夫そう？」

井桁 「うん、部活休みだし、早くあがれる」

美衣 「ごめんね、平日で。特にパパが、楽しみにしてて」

井桁 「……俺もだよ」

美衣 「ありがとう」

と、戻る。

井桁、美衣の背を一瞥。そっと抽斗を開く。

封筒。
美衣、ちらっと井桁を振り返り見る。

6.

同・屋上（昼）

今にも雨が降り出しそうな雲行き。

茉凜、ベンチの下を覗く。ため息をつく。

茉凜 「あるわけないよね」

井桁、来る。

井桁 「探したよ」

茉凜、ビクツとして振り返る。

井桁 「和久井さん」

茉凜、さっと立ち上がり、井桁の傍を通り過ぎる。

井桁、思わず茉凜の腕を掴む。

井桁 「あ、ごめん」

と、すぐに離す。

茉凜、ドアノブに手をかける。

井桁 「この前のこと」

茉凜、ドアノブをぎゅっと握る。

井桁 「嬉しかったよ。その想いを打ち明けてくれたこと」

茉凜 「……ダメですよ、わかってます」

井桁 「それは生徒と教師だから？ 女性同士だから？」

茉凜、ふーと息を吐き出して、

茉凜 「美衣先生は先生の大切な人だから」

茉凜、宙を仰ぎ見る。

井桁 「じゃあどうして本当の気持ちを告白したくれたの？」

茉凜 「……自分じゃどうにもできなかったから。先生に相談し

たところで、ですよ」

井桁 「それくらい、好きなんだよね」

茉凜、井桁に向き直る。にっこりと笑って、

茉凜 「もう忘れてください」

井桁 「それでいいの、美衣先生には何も伝えないの？」

茉凜 「フラれるだけです」

井桁 「そうだね」

茉凜 「そうだねって……」

井桁 「言わずにずっと後悔するより、言って散った方がいいと思うよ。前に進める」

茉凜、徐に顔をあげる。

井桁、ひとつ頷く。

7. 同・屋上に連なる階段（昼）

ドアノブからすっと手を離す一心。降りる。

8. 同・屋上（昼）

茉凜、苦笑して、

茉凜 「手紙、書いてたんです」

井桁 「え？」

茉凜 「『先生、好きです』ってそんな内容。宛先も美衣先生の名前も何も書いてないから大丈夫だと思うけど……」

井桁、思い当たる節があって、目を見開く。

茉凜 「失くしちゃって……」

井桁 「それ——」

茉凜 「でもいいです。ちゃんと伝えます、言葉で」と、くしゃっと笑う。

見つめ合い、笑顔の茉凜と井桁。

ポツポツと雨が降り出す。

9. 同・職員室（昼）

美衣、井桁の席の前に立っている。クラス写真を見下ろしている。

写真、隅に映る茉凜。

美衣、ずっと写真から目を逸らす。徐に抽斗に手を伸ばすと、ゆっくり開く。

封筒。

美衣、ごくりと唾を飲む。

窓の外、雨が本降りになる。

△おわり▽